

イブニングサイトビジットレポート

「フレンドオブマウントテーバー」による活動について

マウントテーバー公園はポートランド市にある、約 200 ある公園の中の一つである。面積は 200 エーカー（約 80ha）、高さ 648 フィート（約 200 メートル）で、ポートランドでは珍しい丘になっている公園である。また、その昔、ポートランドで唯一噴火した活火山だった場所でもある。

公園においては、1960 年代までは、家族にやさしい公園であったが、1970 年～80 年代にかけて公園が衰えて行き、安全でなくなり、家族連れがいなくなった。

そのよう背景の下、市では、90 年代に市の公園局のプロジェクトにより、劇場、トイレ等を整備し、ネイバーフットアソシエーションに公園管理のサポートを一緒にすることを呼びかけた。市の公園局では、公園の数の多さ、予算等の都合により公園管理を考える時期にもきていた。

ネイバーフットアソシエーションにおいても、その呼び掛けに応え、2000 年にボランティア組織を立ち上げた。公園局、消防局、水道局等各機関との連携により公園管理をしている。市において、信頼関係を作る為、時には週 1 回ボランティア組織とのミーティングを行い、時間を経る中で信頼を得る様になった。

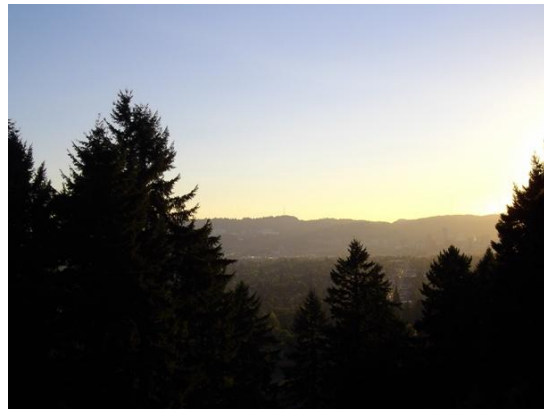
ボランティア活動により、100 パーセントではないが、市民に public とのつながりを持ってもらう事により、市民の教育にもつながっている。

この様な活動が実を結び、現在では、家族に愛される公園になっている。

現在では、毎月火曜日に 1500 人収容できる劇場でコンサートを行ったり、結婚式、自転車レース、ランニングレース、スケボーレース、自然キャンプ等が行わるようになった。

2012 年には、この取り組みに対する努力が認められ、市、州、公園アソシエーションから認知され、賞をもらった。

また、家族が訪れる公園に戻った効果で、公園の周辺の地域の地価が上がるといった、うれしい効果も出ている。



■実際のボランティア活動について

市民のボランティア活動は、現在では週2、3回行われており、公園の状況について市に随時連絡する体制ができている。ボランティアにおけるパトロール隊は55名おり、2名のペアで巡回活動を行っている。公園内のごみ拾い、落書きがされていないか、何か盗まれているか、犬が繋がれているか、そして公園についての質問の受け答え等も行い、何か見つければ記録をするようにしている。

また、10~12名で、ウィードウォーリアーズ（雑草戦士）も立ちあがり、公園内の在来種の保護育成を楽しみながら行っている。2年前には地元の中学生がシダを植えたりした。湿地の質の向上も図っている。

ビジターセンターも整備され、教育的な目的を果たしている。今までに1万人の来館者があり、その玄関には世界地図が置かれ、ビジターセンターを訪れた人がピンを指し、世界の様々な所から公園を訪れている人がいる事が見受けられた。

ボランティアにおいては、会員から15ドル/1人を基準に会費を集めているが、多くの方はそれ以上の会費を払ってくれるとの事であった。多く集まった会費で、4万ドルを公園局に寄付したりもしたとの事であった。



■その他

ポートランド市の公園では、今では約200ある公園に市民が関わっている。その要因として、力強いネイバーフッドが多く、そこが、ボランティアを育成している事が挙げられる。ポートランド市は、全米でトップ3に入るボランティアの協力があるとの事であった。

■水道管維持の取り組みについて

公園の視察後、公園の周辺で行われている、道路の下にある水道管の独自の維持の取り組みについてもお話を聞く事ができた。

地区の水道管の老朽化により、雨が降ると、周りがアスファルトで覆われている為、道路に雨水が一気に流れ込み、水道管が溢れるというような事が起きるようになってきているとの事で、水道水に下水や排水が混ざるといった事も起きるようになった。

これに対する市の対策として、水道管を全て新しくする工事（1億4千4百万ドル）と、

道路の脇に 500 箇所の土のある場所を整備し、3,500 本の木を植え、雨水を道路脇に流す工事（8500 万ドル）を提示し、住民の希望により、後者の工事が現在行われている。

Mt.テーパーのパートナーシップにより、プライベート、コミュニティを巻き込んだ対策を行っており、こういう問題があるんだという事を呼びかけて、一緒にこの問題を解決しようとしている。子供達に対しては、環境局が教材を作り、雨水処理の大切さを教える授業の時間を確保しているとの事であった。

住民ボランティアが木を植える活動を手伝ってくれ、庭先に花を植える様にもなっている。この通りをグリーンストリートやレインガーデンと呼んでいる。

この他、市の戦略的対策として、地域の人気レストランに協力を仰ぎ、屋根や駐車場スペースに花壇を作り、建物においても雨水が道路に直接流れないモデルとして地域に情報を発信している。そして、そこのレストランを訪れた人が、この取り組みを見て自分も真似したいという状況を作り出している。実際周りの建物では、駐車場をコンクリートから雨水が染み込みやすい素材に変えたりする所も出ているとの事であった。

ポートランド市では、コストカットを常に意識し、また、市民の協力を仰ぎ、やる気を引き出しながら、一つの問題に多面的な戦略により対処している様子が伺えた。

